



※講義資料内に出版前の資料データ等が含まれますので、
無断複写・複製・転載等をご遠慮ください。

令和5年度オーガニックビレッジ全国集会

オーガニック関連 取り組み事例

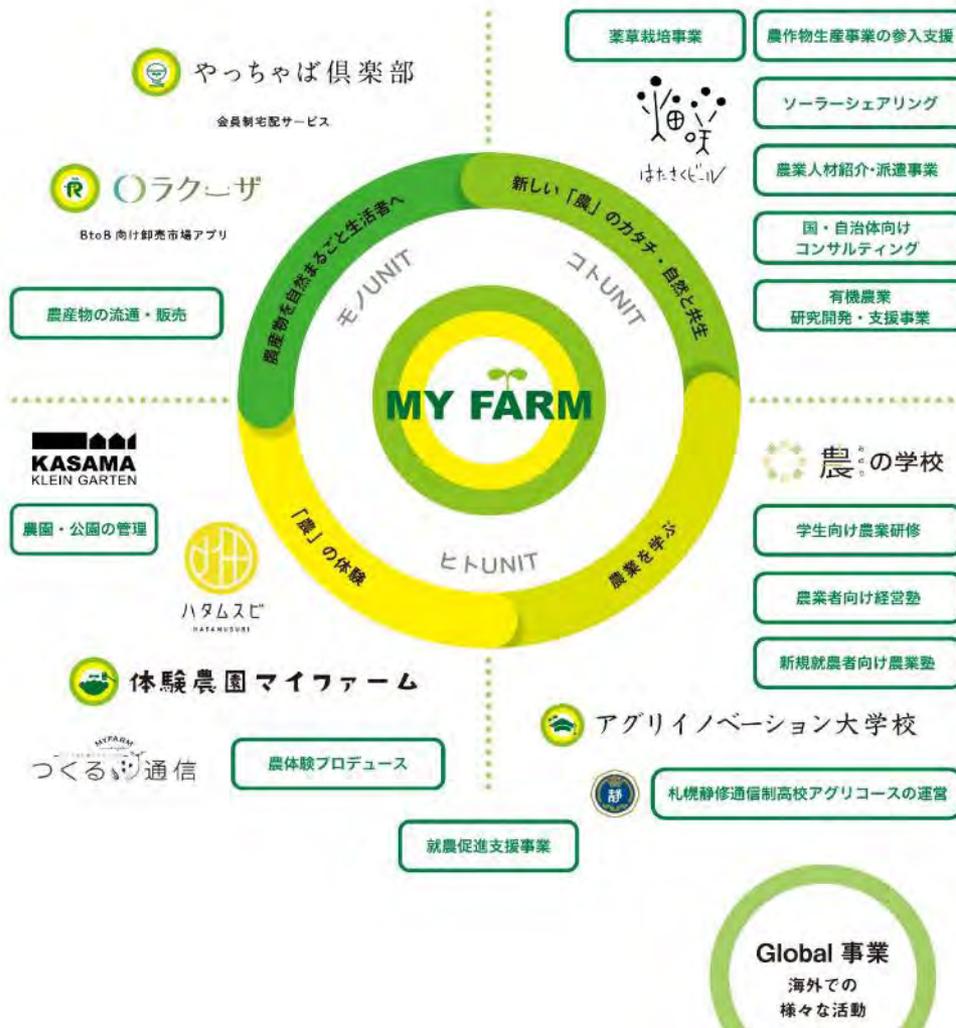
株式会社マイファーム
2024年1月



社名	株式会社マイファーム（英名：MYFARM Inc.）
創業	2007年9月26日
資本金	1億9750万円
主要取引銀行	りそな銀行、京都信用金庫、京都銀行、三井住友銀行、日本政策金融公庫
主な株主	株式会社ツムラ 株式会社マイナビ 自然電力株式会社等
京都オフィス	京都府京都市下京区朱雀正会町1番1号KYOCA会館3階
東京オフィス	東京都港区三田二丁目14番5号フロイントウ三田508号室
福岡オフィス	福岡県福岡市博多区博多駅東一丁目14番3号 第2サンライト東口ビル1F
沖縄オフィス	沖縄県那覇市久茂地1-1-1 パレットくもじ9F
社員数	236名（うちアルバイト158名）※2023年8月末時点
役員	代表取締役 西辻 一真 専務取締役 浪越 隆雅 取締役 石原 北斗、林 久美、瀧口 直人 監査役 谷 則男、本木 賢太郎（AGRI法律会計事務所代表）、末松 広行（元農林水産省 農林水産事務次官）

人と自然の距離が近づく 自産自消の循環の輪

- マイファームが提供しているサービス一覧 -



おきなわ農林水産物マーケティング支援事業(沖縄県_R4)

沖縄県の農林水産物の販売促進を目的とし、沖縄県が定める戦略品目の流通構造の変化等の把握を行う。そして、把握した流通構造の変化に応じた戦略を策定。さらに、その戦略を元に、実際に県内、県外のマーケットに対し、農林水産物の販売プロモーションを実施。



「滋賀の食材」首都圏プロモーション業務委託(滋賀県_R4)

滋賀県の農林水産物を広く周知するため、首都圏を中心とした飲食店で滋賀県食材を活用したメニュー開発やフェアを開催、消費者に情報と共に滋賀県の食材のPRを行った。



有機農業新規参入者技術習得支援事業(農水省_R3)

有機JAS認証取得を目指す農業者に対し、「有機JAS講習会の受講料」や「ほ場実地検査の検査料」を補助することで技術習得を促す事業を実施



農山漁村振興交付金_都市農業振興Bento事業(農林水産省_R3)

都市部住民に対し、都市農業と連携した「食や体験の機会」を提供することで、農業に関する興味関心を得る。都市部で作られた農産物を使用した弁当の企業向け提供、農業体験の実施。



女性が変える未来の農業推進事業(農水省_R4当初) 女性の就農環境改善緊急対策事業(農水省_R3補正)

全国の女性農業者、今後新規で農業界に入る女性を増やすため、各生産現場への設備の拡充のための交付金配布や、経営者の女性受入マニュアル作成、研修会の開催などを実施。



沖縄県特別栽培農産物認証の栽培マニュアル作成委託業務(沖縄県_R4)

沖縄県において、農産物の特別栽培をより一般的にするため、実証圃場を県内3か所設け、栽培実証、及びデータ等の収集を行う。3年間かけ、集めたデータを元に、生産者向けの栽培マニュアルを作成する。



農業労働力産地間連携等推進事業(農水省_R3補正) 農業労働力確保支援事業(農水省_R4当初)

労働力確保が難しい産地同士で人員を行き来させ、交通費や宿泊費に関連する助成金の配布を実施、産地ごとの繁閑の差を埋める取り組みを実施。

宮古島市農林水産物流通・加工に関する基礎調査業務(宮古島市_R3)

宮古島市における、農林水産物の地域内消費、及び地域外出荷の現状を把握し、地域全体利益の最大化に関する調査・検討を行い、中長期的な戦略を策定する。

全国各地での農業経営塾の運営(各県農政課等_R4)

全国の農業者等に向けた、スキルアップのための農業経営塾の開催。農業経営、スマート農業関連など、各県の生産者の状況に合わせてカスタマイズ実施。

環境調和型農業等に関するオンライン講座作成委託事業(農水省_R4)

農業に興味を持ち始めた人、また、農業経営をよりよくしていきたい人など、複数の対象に対して、オンライン講座の教材を作成。事業継承、BCP、働き方改革など、今の農業現場に求められる知識を得られる機会を作る。



教育訓練プログラム開発事業(厚生労働省_R2)

「働きながら学ぶ」をテーマとして、就農後も農業経営を学べる場所をつくるために、厚生労働省の委託を受けて実践的な教育訓練プログラムの開発、提供を行う。



事業の目的

- ・全国的に有機農業・特別栽培を中心に環境保全型農業の展開が求められている（国の方針＆マーケット側のニーズ増）。
- ・沖縄においては病害虫が発生しやすい環境に加えて、土壌環境も他県と異なり、沖縄県独自の総合的な技術整理が必要である。
- ・特別栽培農産物の栽培マニュアルを作成することで、栽培技術の向上、および生産者の収益向上を達成する。

〈R1～R3〉 特別栽培農産物認証向上・発展事業

実施内容

- ① 県内3か所にモデル圃場を設置し特裁技術の実証を行い、各品目の栽培マニュアルの作成

【施設】

ジャーガル：ゴーヤー、サヤインゲン、カボチャ（露地）、オクラ（露地）

島尻マージ：ゴーヤー、サヤインゲン、カボチャ（露地）、オクラ（露地）

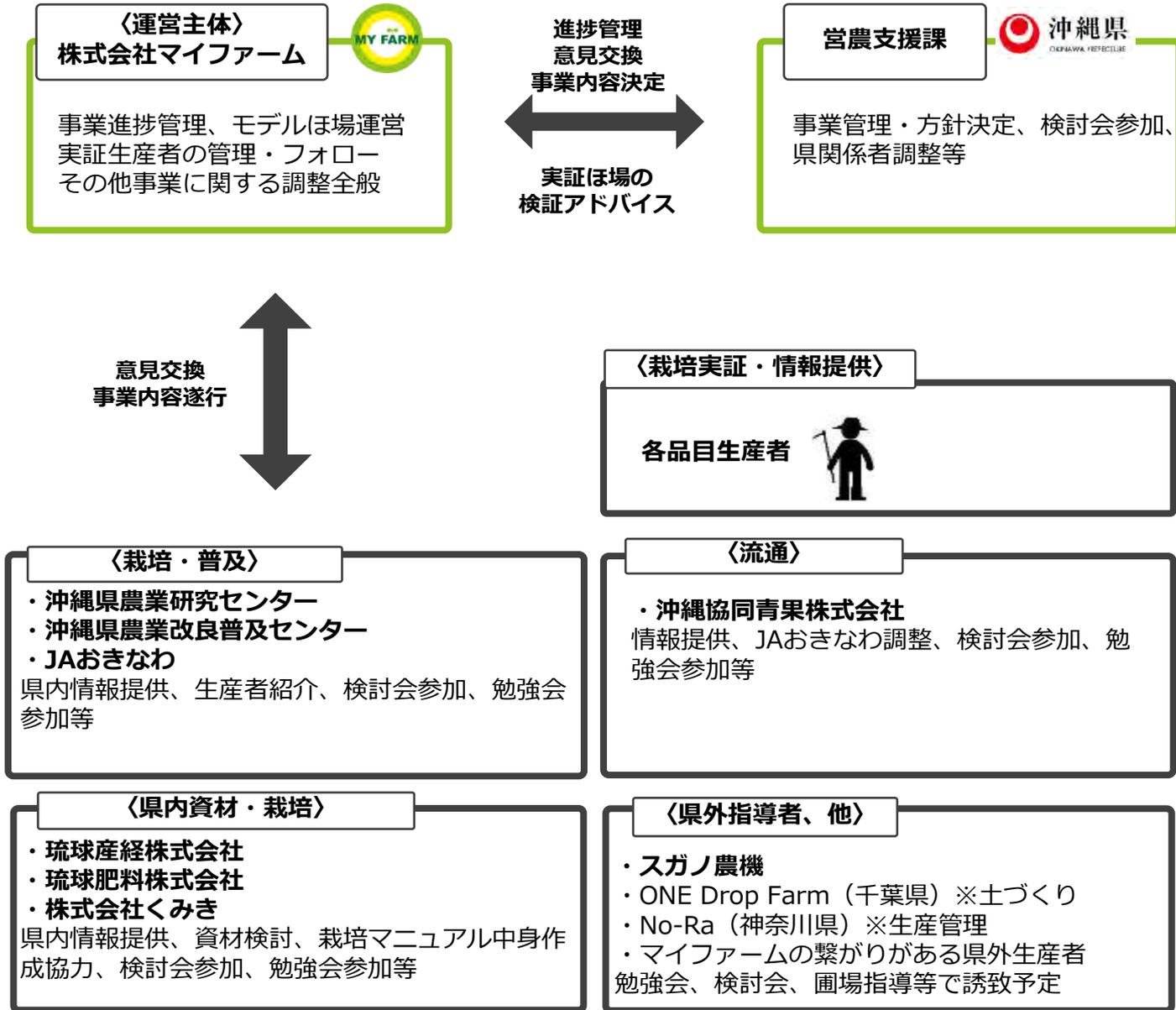
国頭マージ：サヤインゲン、トマト、カボチャ（露地）

- ② 生産者のヒアリングや検討会、メーカーとの技術開発、県と連携した技術確認／情報交換、などを実施

〈R4～〉 令和4年度特別栽培農産物認証等推進・普及事業

実施内容

- ① ゴーヤー、サヤインゲン、トマト、カボチャ（露地）、オクラ（露地）の特別栽培マニュアルの作成・リリース
- ② ①の栽培マニュアルを基に農家での実証栽培・普及
- ③ マニュアル作成の新規品目としてピーマン、キュウリ、ニンジン、葉もの2種をモデル圃場にて検証栽培及びマニュアル作成
- ④ 生産者のヒアリングや検討会、メーカーとの技術開発、県と連携した技術確認／情報交換、などを実施



モデル圃場設置



モデル圃場設計

項目	特裁区	慣行区
土づくり	心土破碎・緑肥	堆肥
施肥管理	基肥を有機質肥料に置き換え 追肥は化成＋有機	県慣行基準の施肥
病害虫管理	IPMを基にした技術導入	慣行体系の農薬散布

土づくり



心土破碎の導入／緑肥の導入効果、タイミング、すき込み方法などの検証

圃場見学会の開催

病害虫管理

特裁区



慣行区



選択制殺虫剤の利用と、土着天敵のモニタリング／慣行と特裁でリサーチエンスによる違いが出ている

心土破碎実演勉強会
(講師：スガノ農機)

2022/7/5,6実施
農研センター、県普及所、JA指導員等多数参加



まずは土づくりをしましょう!



特別栽培において
土づくりが重要な理由

根張りが良くなる。

肥料の効きが良くなる。

その結果...

収量が安定する!

長期間収穫ができる!

沖縄の土壤に共通する問題点

空気が少ない

野菜は伸び悩み

水はげが悪い

土壤粒子細かく粘土質→硬くなりやすい。

下層土が硬い、緻密。排水性が悪い。
→根が伸びにくく、水・空気も入りにくい。

亜熱帯地域で、高温多湿なので有機物の
分解が早い。→団粒構造になりにくい。

周年栽培可能なため、肥料分が蓄積している圃場が多い
→土壤養分が崩れてしまい、生育に影響が出る。

STEP 01 物理性の改善

STEP 02 生物性の改善

STEP 03 化学性の改善

特別栽培で
目指す土壤

空気と水の
通りがよくなる!

空気が豊富

水はげがいい

根がしっかり張って
養水分を吸収する!

空間ができることで、根が
伸びやすく、空気が入りやすく、
水はげが良くなる。

団粒構造が進む!

過剰養分蓄積の抑制!

微生物の働きを活性化させ、土壤改良・有機質肥料の有効活用に繋がる!

土壤分析を基に、無駄な肥料を入れないことで収量安定につながる。

沖縄の土壌の特性

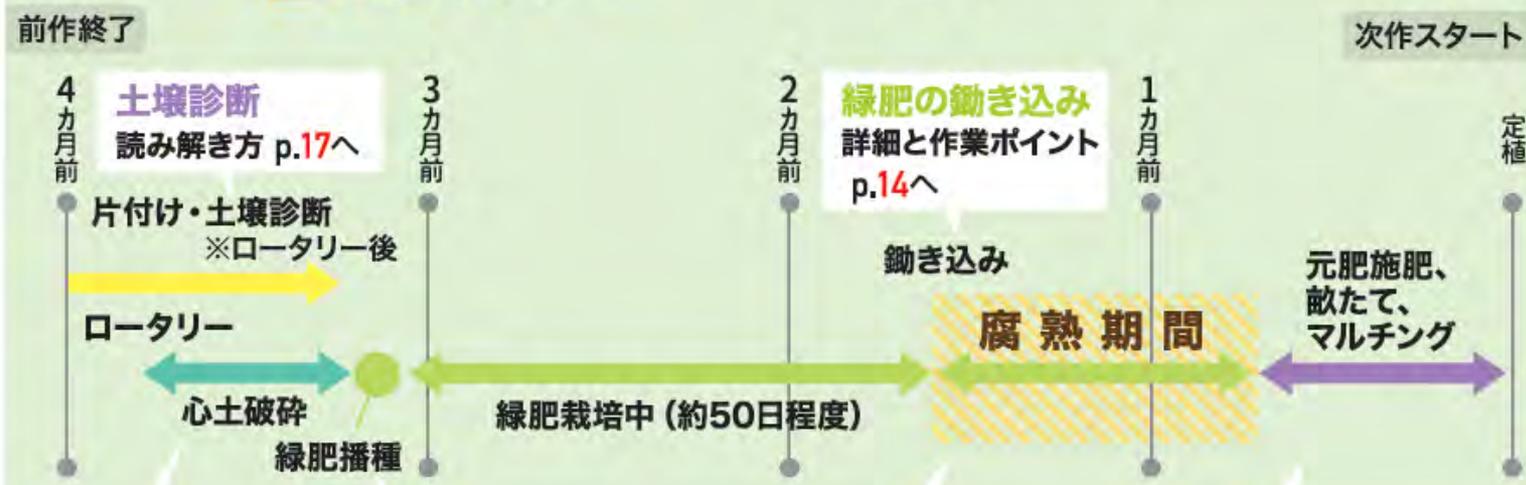
必要な土壌改良の対処法を把握しましょう!

土 壌	特徴と起こりやすいトラブル 	土壌改良の方針と対処法 
<p>国頭マーヅ</p>  <p>土色: 赤黄色 土質: 砂質から粘質まで幅広い pH: 酸性 分布: 本島中北部/八重山諸島など</p>	<p>①酸性土壌で、下層にいくほど酸性が強くなる傾向にある。</p> <p>②カルシウムやマグネシウム含量が低く、県内では最も痩せた土。</p> <p>③養分保持力 (CEC) が少なく、養分の緩衝能が低いため、多肥による濃度障害が出やすい。</p> <p>④下層土の透水性が悪く、根腐れ・湿害など起こしやすい。</p> <p>⑤有機物含量が少なく、強酸性のため、微生物活動が弱い。</p>	<p>① 化学性改善 pH矯正</p> <p>② 化学性改善 カルシウム・マグネシウムのバランスを考えた施肥設計</p> <p>③ 化学性改善 多量施肥を行わないよう、追肥中心に施肥管理</p> <p>④ 物理性改善 排水性の改善/ 心土破碎による耕盤層の破壊</p> <p>⑤ 物理性・生物性改善 有機物の利用</p>
<p>島尻マーヅ</p>  <p>土色: 暗赤色 土質: 強粘質 pH: 中性～弱アルカリ性 分布: 本島中南部/宮古地域など</p>	<p>①ミネラル (カルシウム) を多く含む場合があり、養分保持力 (CEC) は中程度。</p> <p>②水はけがよく、干ばつ害を受けやすい。</p> <p>③作土は柔らかく扱いやすいが、下層土 (心土) は硬く締まっている。</p> <p>④下層土が硬く、根・水・空気の侵入が困難。</p> <p>⑤有機物含量が低い。</p>	<p>① 化学性改善 カルシウム・マグネシウムのバランスを考えた施肥設計</p> <p>② 生物性改善 有機物の利用による団粒構造の形成</p> <p>③④ 物理性改善 心土破碎による耕盤層の破壊</p> <p>⑤ 物理性・生物性改善 有機物の利用</p>
<p>ジャーガル</p>  <p>土色: 灰色 土性: 強粘質 pH: アルカリ性 分布: 本島中南部</p>	<p>①アルカリ性で、カルシウムを豊富に含む。</p> <p>②アルカリ性による微量元素欠乏症の発生が懸念される。</p> <p>③養分が豊富で肥沃な土壌であり養分保持力 (CEC) が大きい。</p> <p>④作土の物理性が悪く、土壌改良しないと耕耘や植え付けが困難。</p> <p>⑤下層土の透水性が悪く、根腐れ・湿害など起こしやすい。</p> <p>⑥有機物含量が低い。</p>	<p>① 化学性改善 カルシウム・マグネシウムのバランスを考えた施肥設計</p> <p>② 化学性改善 微量元素欠乏に配慮した施肥設計</p> <p>③ 化学性改善 適量の施肥</p> <p>④ 物理性改善 有機物の利用による団粒化</p> <p>⑤ 物理性改善 排水性の改善/ 心土破碎による耕盤層の破壊</p> <p>⑥ 物理性・生物性改善 有機物の利用</p>



① 長期間パターン (約4か月) ~ 緑肥利用 ~

次作まで時間のある方向け
 毎年1回できると理想的! p.12へ



心土破碎



まずは心土破碎
長期間パターン・短期間パターン共通!

機械的な土壌改良方法のひとつで、トラクターで走行を繰り返すことによって踏み固められ、硬くなった心土を破碎する作業

どのような時にやる?



・透水性不良のために地表に停滞水が生じる場合

期待できる効果



・全層の通気性、透水性、保水性の増加
・排水性の改善
・植物の根張りをよくする

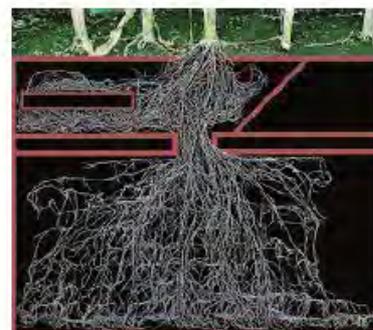


心土破碎しない

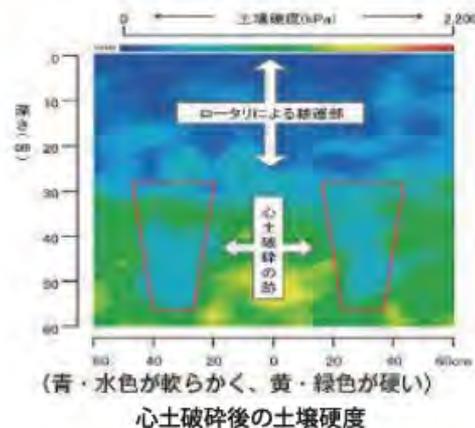
心土破碎効果

心土破碎に用いる機械の比較

	排土型 心土破碎機 例: プラソイラ	サブソイラ
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・サブソイラより破碎効果が高い。 ・下層土を持ち上げて作土層と混和。 	<ul style="list-style-type: none"> ・破碎効果は高い ・下層土のpHが低い場合はプラソイラ等でなくサブソイラ
推奨土壌	シャールガル・島尻マーヅ	国頭マーヅ ※弾丸をオプションで付けると効果的

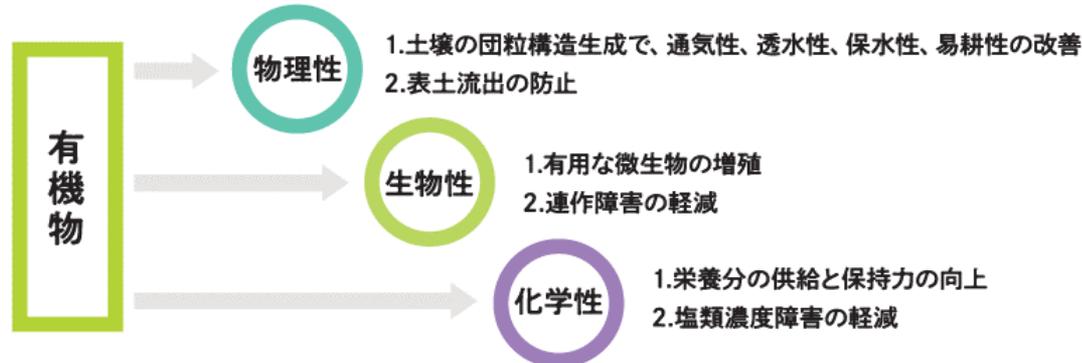


心土破碎後の根の生育



有機物の利用 (緑肥・堆肥など)

有機物を入れることで得られる効果



緑肥とは

そのまま鋤き込むことで、土づくりや肥料効果がある作物。
また、養分が蓄積した圃場では緑肥の地上部を外部へ持ち出すことで、土のクリーニングをすることができる。

いつ取り入れるのか?

- ・次作までの準備期間
- 2カ月程度あれば栽培⇒鋤き込みまで完了できるため夏の間、畑を休ませる間の土づくり・防草効果としても有効的

期待できる効果





予防

病害虫を発生させない環境づくり

栽培前に病害虫が発生にくい環境を整えることで、栽培スタートしてからの防除回数を減らすことができます。事前にできることはすべて対策しておきましょう。



土づくりと排水性改善

排水性・通気性が悪くなると病原性微生物が増えやすく、病気になりやすいので、排水性の改善が必要

- ⇒ 高畝にする (右図)
- ⇒ 物理性の改善 p.10 参照



土壌消毒

栽培前に土中の病害を消毒することで、栽培期間中の防除回数
沖縄は日照量も多いので、他県よりも太陽熱消毒を短期間で

期待できる効果

- 土中の病原菌を死滅 (特にトマト青枯病、ウリ類つる割病等)
- 土中にいる害虫の卵、幼虫、さなぎを死滅 (ヨトウ類、ハモグリバエ類等)
- 土中の雑草の種子を死滅し、雑草が生えないようにする

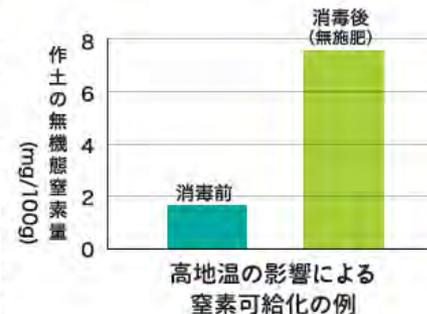
column
コラム

太陽熱消毒による合理的な肥培管理

基肥を先に入れて太陽熱消毒を行う場合、消毒中の高地温の影響を受け、窒素・リン酸といった主要な肥料成分の可給化 (作物が利用しやすい形態に変化すること) が増加します。

土壌の肥沃さや地温の高まり具合などにより異なりますが、窒素成分の基肥量を2割程度減らすことができます。

農研機構
陽熱プラス実践マニュアル



土づくり期間



POINT! 土壌還元消毒の手順とポイント

モデル圃場での事例

太陽熱還元消毒 処理期間：8/13～9/10

必要資材 (10a換算)

- ・糖蜜 100L (3倍に希釈)
- ・フスマ 1t (※傾斜のある圃場のため、糖蜜のみだと流れてしまう心配があったため)
- ・水 足が軽く沈む程度
- ・灌水チューブ (露地ワイドタイプ)
- ・被覆ビニール (ハウスビニールの廃材利用)
※穴が開いていると効果が下がるため注意
- ・重石の水枕用ダクトチューブ

ビニールに穴が開いていると空気が抜けるため、塞ぐ

- ①前作終了後、耕耘をした状態に、フスマを全面散布しなるべく深くまで耕耘。



ふすまを全面散布

- ②灌水チューブを設置し、ビニールをかぶせる。周辺に重石となる水枕を置く。



両サイドまで水が届く間隔で灌水チューブを設置



水枕だと、畑の形に合わせてやすく、台風にも耐えられる(土を重石にすると使用した土は消毒できないため注意)

- ③液肥混入機を通して、灌水チューブから希釈した糖蜜を流す。水を灌水チューブから足が軽く沈む程度までたっぷり流す。



タンクに水で3倍に希釈した糖蜜を液肥混入機を100倍で流す

- ④ハウスを閉めきり、最初の3日間は地温が30℃以上保たれているか確認。



晴れが続く日を選び、ハウス内は全て閉めきる



ダクトチューブに水を入れて結束バンドで縛る

- ⑤積算温度が800℃以上となったタイミングでビニールを剥がし、表面を軽く耕耘



- ⑥軽く表面が乾くまで2日ほど放置し、基肥を施用・畝立て後、定植日までの間透明マルチで被覆



保湿と温度確保のためビニールマルチで被覆し、有機質肥料が分解を進める

消毒前の①のタイミングで基肥を入れて、畝立てをしたうえで、消毒をしても良い(②以降の流れは同じ) ※その場合、栽培前に通路がひび割れる等土壌中に空気が十分入ったことを確認が必要

太陽熱還元消毒の効果



初年度：発生株多発 (8割発生)

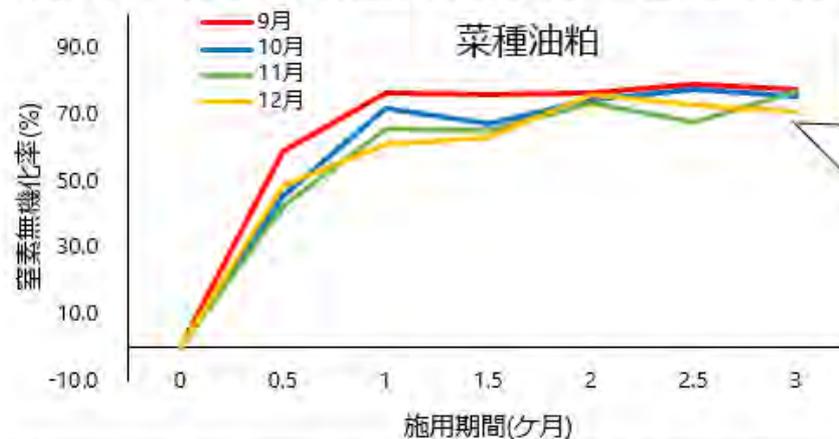


栽培終了後、1か月間実施

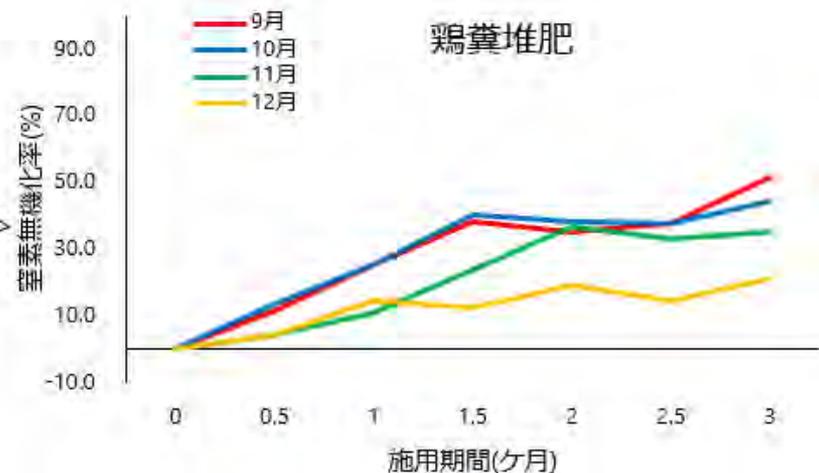


2年目：発生軽減 (1割発生)

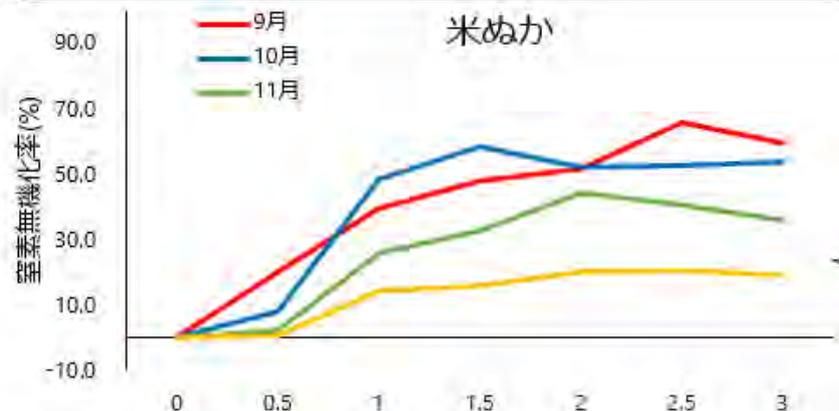
沖縄県における有機質肥料の月別窒素無機化率の推移 (ジャーガル、県農研センター土壤環境班調べ)



- ・ 1か月程度で70%ほど窒素が無機化するため、最低でも定植の1か月前に施肥をする。
- ・ 9月に比べて12月は1か月時点で15%程度の差があり、気温が低くなると、肥効が悪くなるため、施用する時期を考慮して施用量を決める



- ・ 9、10月と11、12月を比べると1.5か月程度で15~40%と無機化率に差があるため、施用する時期を考慮して施用量を決める
- ・ 肥効率は油粕に比べると少ないため、鶏糞を使用する際は投入量が多くなる



- ・ 1か月時点での無機化率に、時期ごとに差があるため、施用する時期を考慮して施用量を決める

沖縄県特別栽培農産物 栽培マニュアル 基礎技術編



沖縄県営農支援課HPで閲覧できます
https://www.pref.okinawa.jp/site/norin/eino/kankyo/tokusai_manual.html

『沖縄 特裁 マニュアル』で検索



事例①

〈R1～R3〉 特別栽培農産物認証向上・発展事業 〈R4～〉 令和4年度特別栽培農産物認証等推進・普及事業



事例②

2019年～ 兵庫県丹波市立 農の学校 学校運営





丹波市立農の学校は、丹波市が設置し株式会社マイファームが指定管理業者として学校運営及び施設運営を行っています。

農の学校では、卒業生ひとり一人が、農と食に関わる仕事を通じて、ほかの誰のものでもない自分自身の「幸福」を実現できるようになることを人材育成のゴールとする。

運営方針

- 1 有機農業界の英知を集結して、農業界の次代を担う人材を育成する。
- 2 丹波市および周辺地域の農業の担い手となる人材を育成する。
- 3 受講生一人ひとりが「自分の農場」として主体的に関われる場づくりをする。
- 4 農と食の楽しさ、面白さを実感できるカリキュラムを用意する。
- 5 周辺農家と連携し、地域の営みに深く根差した学びと暮らしを実現する。

教育方針

「自分で考え、自分で決める」自主性を養う場とする。
畑は「学びの場」であると同時に「実践の場」である。
失敗してもいいから試してみることを大事にする。

○施設

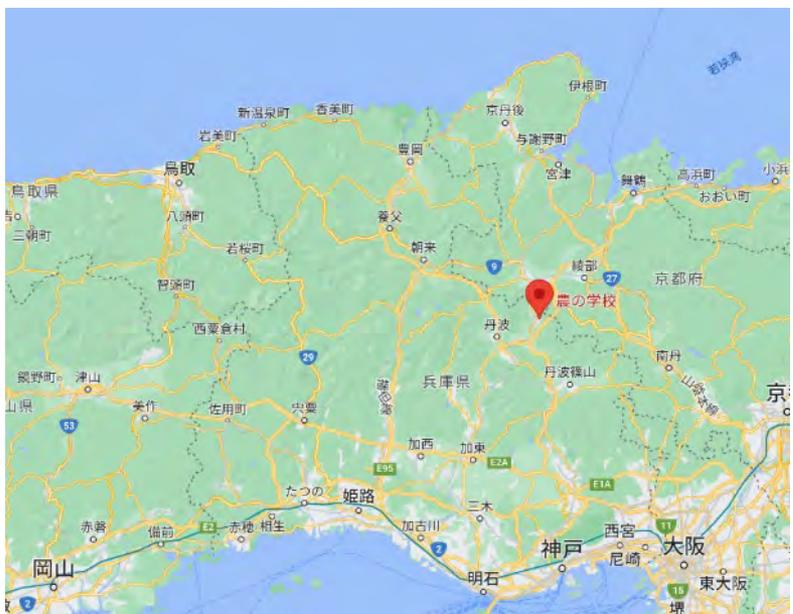
校舎/資材ハウス/育苗ハウス/栽培ハウス3棟

○圃場

14圃場/2.0ha

○機械

トラクター (25馬力) /マルチャー/ハンマーナイフモア/スパイダーモア/一輪管理機/動力噴霧器/デイトナ/刈払機4台/フレールモア/プラウ/プラソイラ/ほか



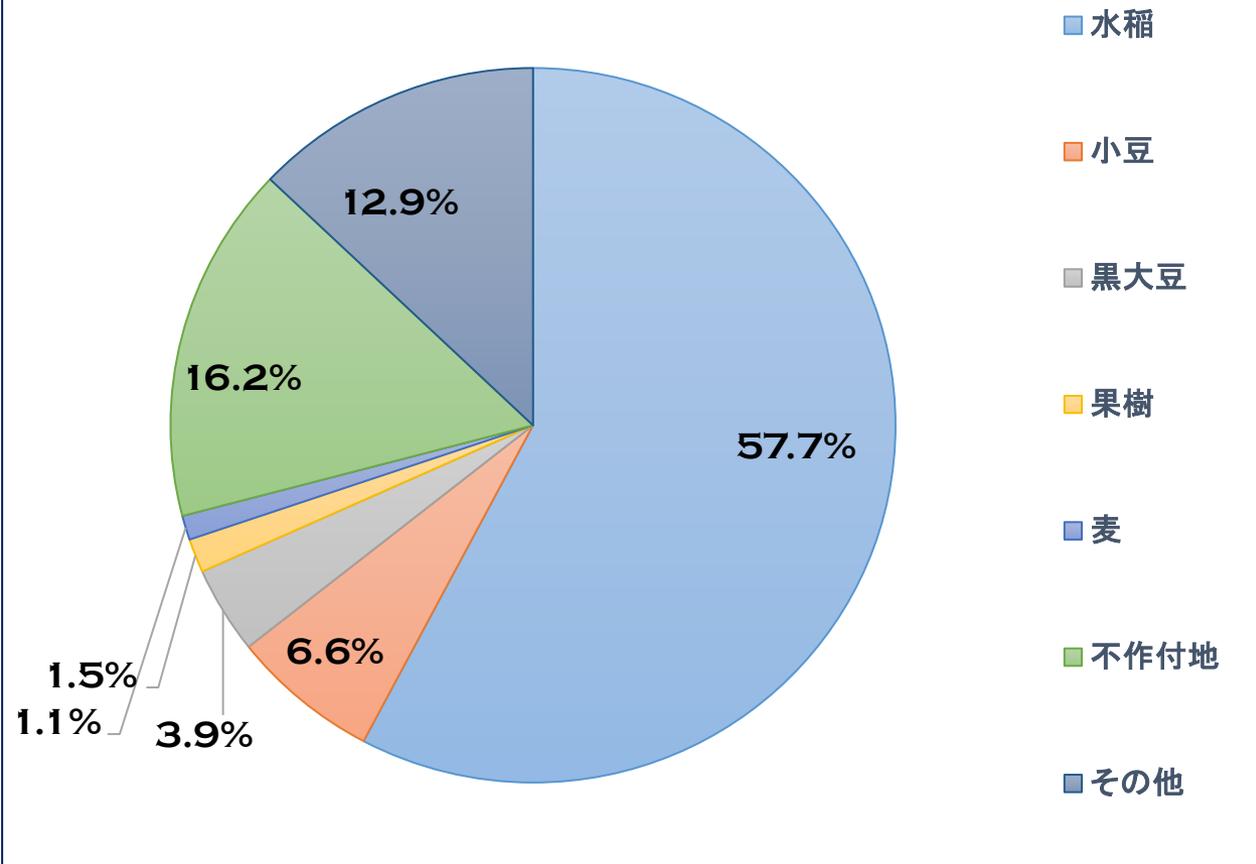
土地利用の状況

**主要農業産出額
(推計)**

- 水稲 30.8億円
県下 2 位
- 豆類 9.8億円
県下 2 位
- 花き 8.3億円
県下 1 位
- 畜産 53.1億円
県下 3 位
- 合計 114.0億円

兵庫県農林水産統計(R2)

農地(田)の利用状況



丹波市農林振興課資料

◆丹波市の有機農業の歴史

丹波市の有機農業の歴史は、市島地域に市島有機農業研究会が発足した1975年に遡る。

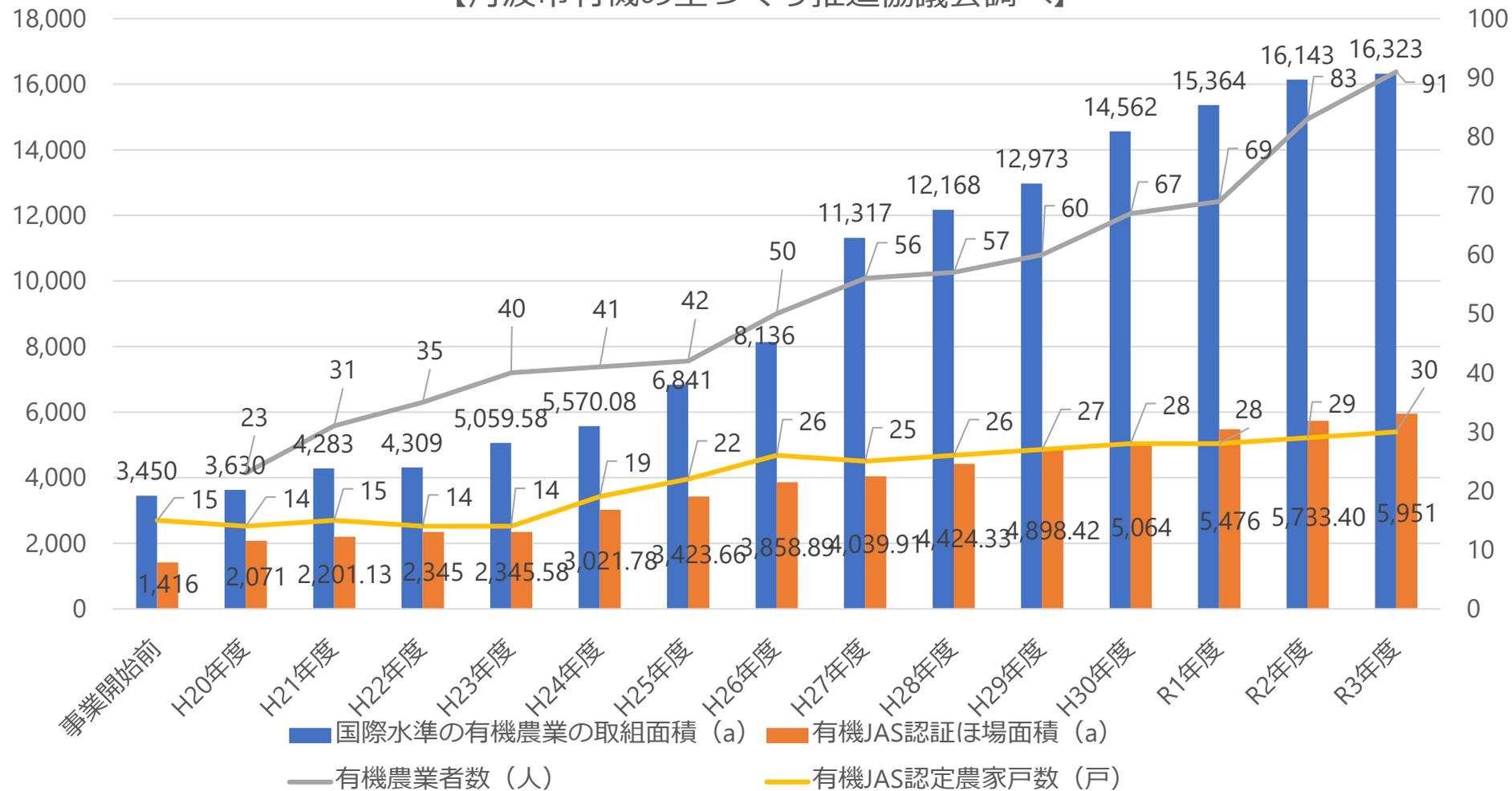
公害問題、食品汚染に世の中の関心が高まっていた当時、「消費者と信頼関係を結んでやっていきたい」との思いを共有した30数軒の農家が結成したのが市島有機農業研究会。

その後、丹波市が発足したことに伴ない、2008年には「丹波市有機農業研究会」が発足し、「丹波市有機の里づくり推進協議会」があわせて設立されたことにより、市内でも様々な取り組みが行われることとなり、丹波市の有機農業の新しい歴史が始まった。

年間を通じて発生する丹波霧と昼夜の寒暖差が、農作物の旨味を引き出します。この気候風土から、全国に名高い丹波ブランドの農作物や歴史に裏付けされた品質の高い有機野菜が生まれる。

有機農業に関わる人数及び面積の推移

【丹波市有機の里づくり推進協議会調べ】



事例②兵庫県丹波市 公設民営 特別栽培関連の取り組み

「丹波市立 農の学校」の特色

特色その①

全日制の超実践型カリキュラム



特色その②

農業界トップの豪華講師陣

特色その③

学びの環境徹底サポート制度



事例②兵庫県丹波市 公設民営 特別栽培関連の取り組み

特色その①：全日製の超実践型カリキュラム

1年間を通じて、有機農業の技術、経営を学びながら、受講生が主体的に関わって2.0haの圃場を管理、運営します。栽培した作物は自分たちの手で販売、出荷。多角的に経営のイメージを掴みます。



▶ 農業の原理原則を学ぶ

栽培実習/実地研修

農業の「原理原則」を学び、環境に対応できる真の実力を養います



▶ 経営のノウハウを身に付ける

経営戦略座学

経営に必要な知識の他、データ分析を駆使し、戦略的な経営の実践に取り組みます



▶ 地域と共に生きる

地域経営研修

里山のゆたかな資源を生かし、地域全体の持続的な経営を考えます



丹波市立農の学校は有機JASの認証を取得しています。

事例②兵庫県丹波市 公設民営 特別栽培関連の取り組み

カリキュラム内容



農の学校ほ場 栽培実習

学校ほ場にて、年間の作付計画をベースに少量多品目の野菜栽培を行います。講師は、農の学校専任講師が務めます。



栽培講習・機械講習

農業技術の基礎から応用まで。農業の「原理原則を知る」ための座学講義を、アクティブラーニング方式で行います。



地域マスター・プロ農家研修

オーガニック農業法人や、地域の特産品栽培に取り組む地域の先輩農家と共に実際の農業経営の現場に入ります。



座学講義（農業技術）

農業技術の基礎から応用まで。農業の「原理原則を知る」ための座学講義を、アクティブラーニング方式で行います。



座学講義（農業経営）

農地法等関連する法制度、流通販売についてなど、体系的な農業経営に関する講義を受講します。



地域のなりわい講座

丹波ならではの「地域のなりわい(仕事)」に注目し、農業を軸に、地域全体を考える広い視野を身につけます。

事例②兵庫県丹波市 公設民営 特別栽培関連の取り組み



栽培講習 / 機械講習



マスター/プロ農家研修



農業経営



なりわい講座



学校風景



学校風景



学校風景



年間スケジュール

農の学校年間カレンダー



前期 4～9月

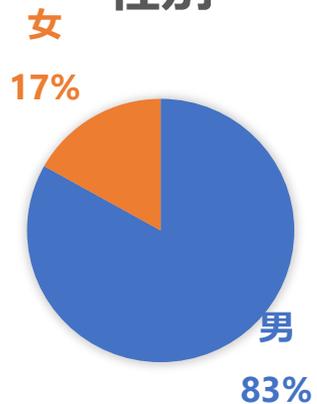
農業の基礎を身に付ける期間
農業の身体づくりをする期間

後期 10～3月

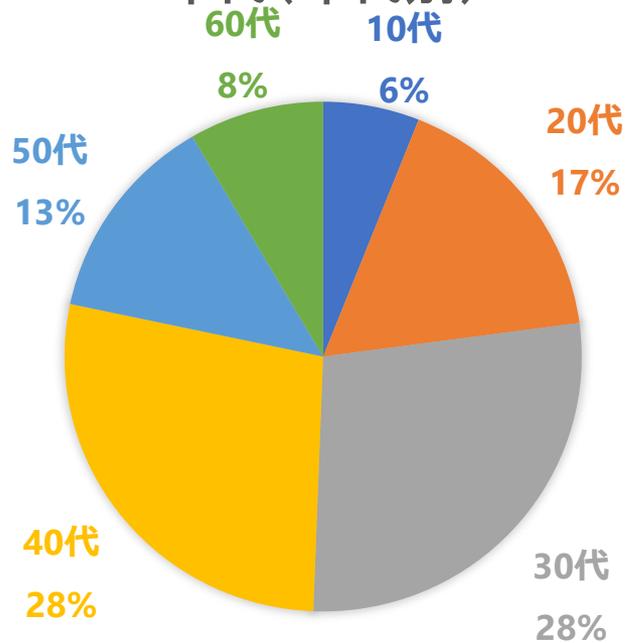
「問い」を持って学びを深める期間
自身の進路に向けて計画を立てる期間

受講生情報（現役生含む）

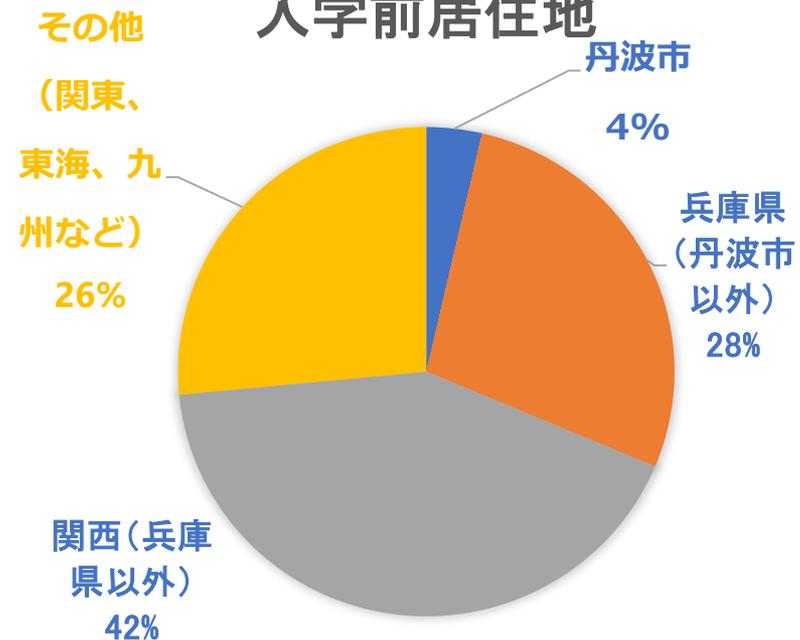
性別



年代(年代別)

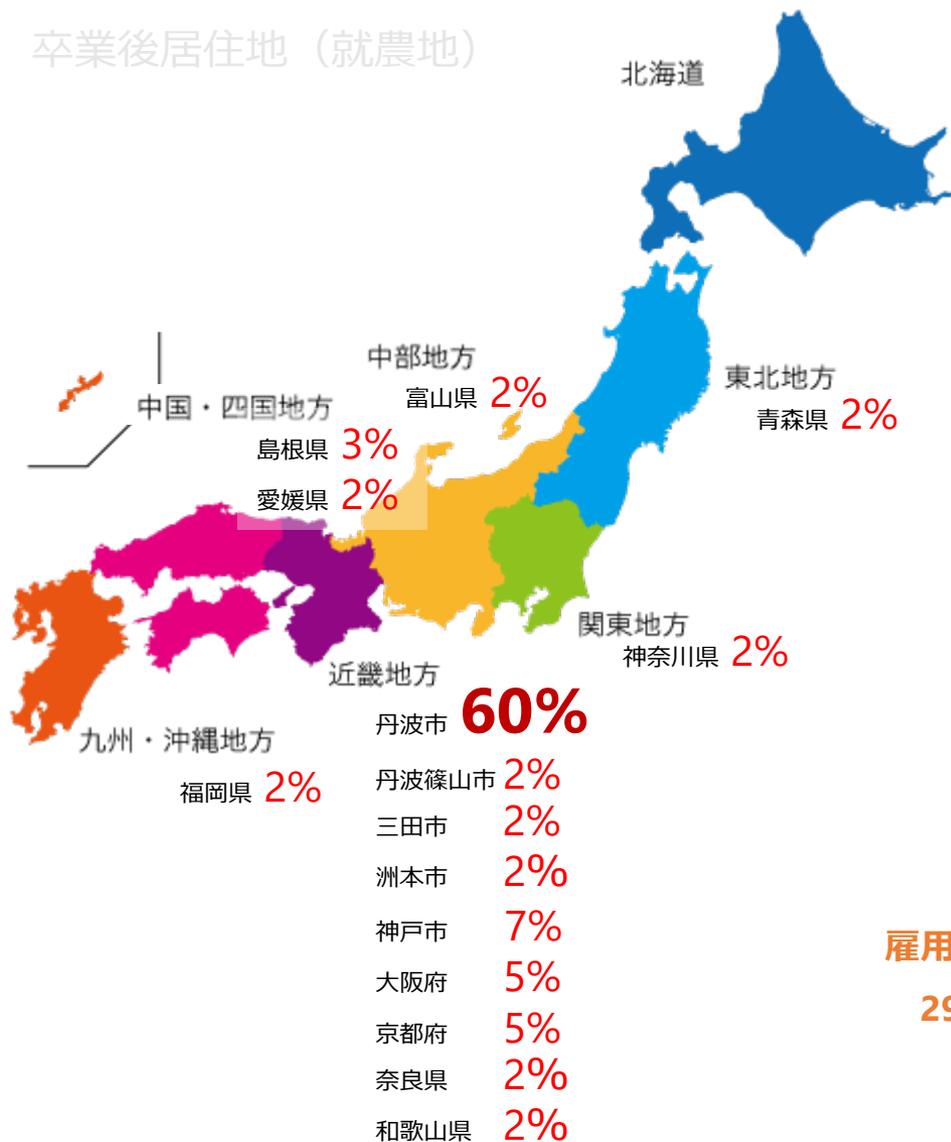


入学前居住地

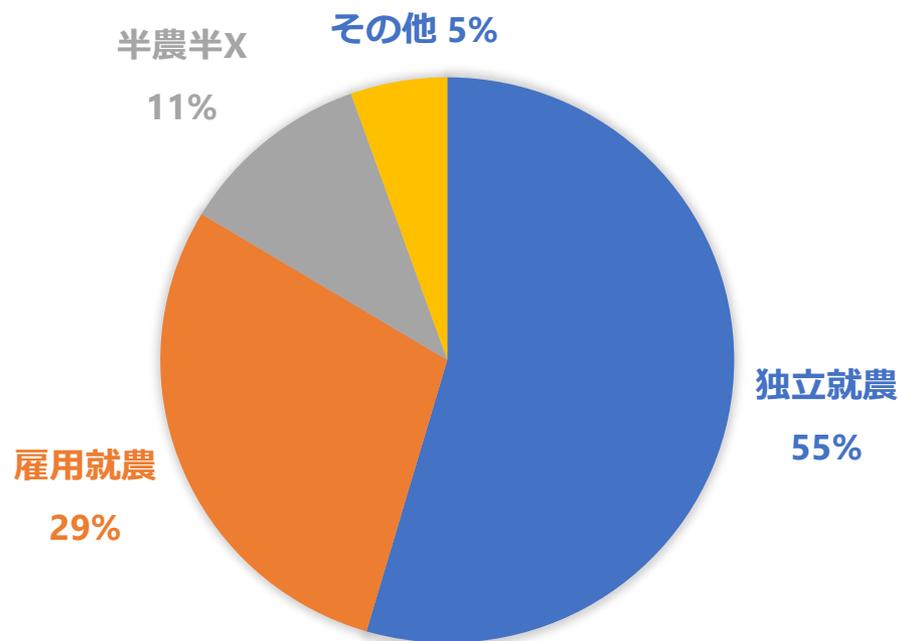


卒業生進路実績（卒業生のみ）

卒業後居住地（就農地）



進路実績



「丹波市立 農の学校」 学校概要

開講期間	2024年4月～2025年3月（1年間／2学期制） 2024年4月5日（金） 入学式・オリエンテーション 2025年3月11日（火） 卒業式・卒業発表 【前期】2024年4月5日（金）～2023年9月30日（月）【後期】2024年10月1日（火）～2025年3月11日（火）
開講場所	農の学校 校舎および圃場（兵庫県丹波市市島町上田）
総受講時間	1607時間／週5日程度／全日制（2023年度実績）
カリキュラム	・座学講義 207時間（2023年度実績） （農業技術36時間／栽培講習66時間／農業経営・データ活用78時間／営農計画策定・ゼミナール27時間） ・栽培実習・実践（圃場実習／マスター農家研修／プロ農家研修／機械講習／振り返り）1352時間 ・地域のなりわい講座 48時間 ※開講時間及びカリキュラムは予告なく変更になる場合がございます。
課外プログラム	日本農業技術検定受験（2・3級）／農業簿記検定受験（3級）／有機JAS講習会（資格講習） 地域プロ農家での短期研修／イベント参加、マルシェでの販売実践等
定員	20名（第6期生）
入学要件	18歳以上の方／高等学校卒業程度の学力を有すること／健康状態が良好であること ※願書等により、選考の上受講生を決定します。
費用	受講料 670,000円（『農業技術の教科書』及び学校指定教科書代金含む） 日本農業技術検定2・3級受験料 7,330円／農業簿記検定3級受験料 1,650円／有機JAS講習会受講料 11,000円 ※以上、価格はすべて税込 ※講義会場までの往復交通費については各自のご負担となります。 傷害保険料 およそ15,000円（非課税） ※不慮の事故や怪我に備え、全員に加入いただいております。 ※確定金額とお支払方法のご案内は2024年3月を予定しております。